

KPI研修のグループワーク結果

令和6年8月5日（月）
令和6年度第1回日進市総合戦略推進委員会 資料4

基本目標	1.健やかに暮らす	2.安全・安心を高める	5.学びと文化で未来を創る人材を育てる	6.地域の自治力と行政経営力を高める
追加する指標	認知症サポーターの人数	建物の耐震化率	通学路の安全確保のための交通指導員の危険個所に対する配置割合	LINEの登録者数を増やす 人口カバー率
追加した理由	・地域が支え合って暮らしていると思う市民の割合の増加につながるため ・地域福祉活動へ参加したことがある市民の割合の増加につながるため ・地域福祉課が事務局とされているためサポーター数を把握しやすい ・90分の講座を受けるだけ、義務もないため市民が取り組むハードルが低い ・地域福祉計画に載っている	・基本指標の「家庭で災害対策をしている市民の割合」に直結する個別指標が不足しているため。 ・数々の災害の中で、市民が一番不安に思い、影響があるのは地震であるため。	・学区変更や、子どもの増加に伴い危険個所が増え、見守りする場所が増えるため、交通指導員を危険個所に配置するため。	・総合計画施策27 広報・広聴の現状と課題の中に『広報紙等の紙媒体による情報発信だけでなく、インターネット技術を活用した電子媒体を生かしながら情報を提供することで、市民が手軽に情報を入手できる環境を整備する必要がある』とあるが、指標として設定されていない。 ・現代社会においては、情報収集する手段としてメールよりもSNSやLINEを活用している人が多い。 ・多様な媒体でわかりやすく届けられることを施策の目標としているため、メールや広報だけでなく、LINEの指標も必要と考える。
考えられる課題	・年齢のばらつき（10代と70代以上が多い） ・認知症、高齢者のみにフォーカスした指標である ・受講メリットを感じづらい（資格や権利が与えられるものではない）	・建物の耐震化は多額の費用がかかり、達成できるかは個人の経済状況や意識による。 ・周囲の建物が耐震化されていないなど、二次災害の恐れがある。	・危険な個所が人の見方によって様々なため、交通指導員を配置する判断基準が難しい。 ・早朝と午後（複数回）のなり手が見つからない。	・LINEに情報を流しすぎると、利用者にLINEをブロックされてしまう。 ・ホームページ、SNS(インスタ、X等)、メールなど情報発信手段が多様化してしまい事務が煩雑化する。 ・魅力ある情報ができずに登録者数が伸び悩む
課題解決策	・企業や職場への従業員向けの出前講座 ・講師の養成 ・他の地域福祉活動への興味・意識を持つきっかけに ・健康マイレージのポイント等の付与対象に	・耐震診断および補助事業の強化 ・耐震の重要性について市民に周知・啓発	・市、学校、区と連携して実状を把握して、適切に指導員を配置する。 ・通学する児童と交通量を鑑みて危険個所を選定する。 ・子どもが増加する地域・通学路を把握する。 ・ETC2.0のデータを活用し、交通量の多い箇所を把握する。 ・勤務形態を多様化してなり手をみつける。 ・より危険個所に重点的に配置できるようにする。	・セグメント情報配信機能を使い、ほしい情報だけが届くようにする。 ・SNSやメールを一括で配信できるツールを導入、活用する。 ・魅力ある配信方法についての検討を行う。(配信方法に対する研修等) ・また、登録者数が伸びている団体についての研究を行う。SNS等を使いこなしている若い世代や市内の大学に通う学生と協働し魅力ある発信方法について検討する。

基本目標	3.暮らしやすいまちを創る	4.観光まちづくりの推進
修正する指標	修正前：空家数（戸） 修正後：空家バンク登録数	修正前：観光レクリエーション資源・施設における利用者数（観光入込客数） 修正後：修正後：観光レクリエーション資源・施設における市内外の利用者数（観光入込客数）
修正した理由	・空家数が多いことが問題ではなく、管理されない空家の数が増えることが問題 ・空家バンク登録数を指標とすることで、登録数が増えれば空家が流通することになり、居住環境や空家対策への満足度の向上につながると考えられる。	・施策の目標とするまちの姿「市内外からの観光客が増加しています」では、市内外それぞれの観光客数が図れないため
考えられる課題	・空家への需要はあるが、供給が足りていない。	・市内外の観光客数を増やしたいが、認知度が足りない。 ・これまでの観光客数（リピーター）に加え、市外からの観光客数を増やす
課題解決策	・供給を増やすための施策（補助金の充実等）の追加を検討していく必要がある。	・転入者への積極的な情報発信等 ・市外向けの観光コンテンツ造成と発信（インターネット・SNS等）